

(メンタルヘルス)相談の現況と課題

=若者の自立支援を実施しているNPO法人の立場から=

◇若者自立支援事業=厚生労働省・地元自治体の委託事業

◎地域若者サポートステーション(サポステ)での就労支援(柏・松戸)*全国177ヶ所

就労相談・支援プログラム・作業トレーニング・職場/見学・体験・臨床心理相談

◇中高生の居場所事業(市内5ヶ所のうち2ヶ所)=松戸市委託事業

平日の放課後(20時まで)と土日・夏休み等(13時~20時)の居場所提供

*リアル相談(都度) & SNS相談=LINE(週1日 17:00~20:00)

◇障がい者就労支援・相談事業

働くことへの不安を感じている人への就労支援・相談

*令和5年度から「メタバース」を取り入れた就労支援/相談の試行開始

◇一般的な相談(自立支援・就労相談・ひきこもり相談 他)

認定NPO法人キャリアデザイン研究所

理事長 村松 正敏

若者サポートステーション(かしわサポステ)における オンライン相談・リアル相談の実際について

- 1) 毎年 160名程度/年 の新規登録(必ず、来所登録が必要) *15~49歳
*最初の登録時にリアル面談を実施 必修(インテーク面接) 利用料 無料
- 2) 当事者の状況、将来への考え・特性等を考慮し「キャリアコンサルタント」
が支援を提案し、支援を開始する(職業適性検査などから開始) 利用期限 無
*相談・PC習得講座・模擬面接・社会人講座・会社見学・作業トシ・臨床心理相談
- 3) 就業に結びつくのは個人によりマチマチ(半年~数年も)
*毎年100名程度が就職 (ハローワークとも連携/企業合同説明会)

2)~3)の間で様々な相談が発生(2019年度~2022年度の相談件数)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
来所相談 (リアル)	2129件	1565件	2371件	2398件
WEB相談 (オンライン)	0件	143件	103件	50件
メール・電 話相談	143件	711件	562件	395件
相談総数	2272件	2419件	3036件	2843件

4年間の相談件数の推移からの考察

①web面談 (Zoom) はコロナ前はゼロ件が2020年度にピーク(144件)で年度毎に減少傾向

◎コロナ感染緊急事態発出で、面談を(緊急以外は)オンラインか電話、メールに切り替えて実施。スタッフもテレワーク化した。

◎利用者は「直接話しをしたい！」希望が多く、Web面談も限度がある(手間等)

②web面談の効果(利用者のメリットとして感じた事項)

◎就職の準備に役立った

* オンライン企業説明会・オンライン面接の参考に

◎サポステまでの交通費、時間の節約になる(相談に限らず会議等でも)

③電話・メール相談はコロナ前(2019年)に比して2020年は5倍に増加

◎利用者は「相談員＝キャリアコンサルタント」と幾度も面談しているため

- web面談よりも手軽で相談しやすい。
- 顔、表情が不詳でもラポール(信頼関係)ができています
- 通所の時間・交通費の負担減

◎①同様、コロナ緊急事態のため、リアル面談を避けた

相談の内容

仕事に就くことへの不安
続けられるか？
ハローワークに行くのも躊躇

コミュニケーションに
自信がなく、面接も怖い

職に就いたが長続きしない

就労に向けての職種や自分の適性
がどういうところに適してる？

家族や友人との人間関係が
うまくゆかない



<相談室>

サポステの本来の目的＝就労支援(相談・プログラム..)

* 1STEP・2STEP前段階(一歩踏み出せない)での支援全般が多く、幅広い対応が必要

* 就労相談と心理相談＝発達障害等(公認心理士・精神保健福祉士)にて対応
(キャリアコンサルタント)

専門医や関係機関との更なる連携強化が課題